

発達障害のある子どもが登校をしぶりだしました。どうしたらよいでしょう…。

Q 中学1年生男子生徒の父親です。私の息子は、5歳のときに発達障害がある(知的発達に遅れはない)と診断されました。特別支援学級への入級も考えましたが、本人が「みんなと一緒に学級がいい」と言うので、通常の学級に進学し、現在に至ります。5月までは、新しい生活にも何とか慣れ、頑張って登校していたのですが、6月頃から、登校をしぶりようになってきました。朝になると、「お腹が痛い」「今日は学校に行きたくない」と言うようになりました。理由を尋ねても、ただただ「痛い」「行きたくない」を繰り返すばかりで、明確な答えは返ってきません。現在は、週に一度くらいのペースで学校を休んでいます。だんだんと学校へ行かない日が増えていくのではないかと心配しています。

A 中学校生活という新しい慣れない環境の中、お子さんは頑張ってこられたのですね。一つ確認しておきたいことは、発達障害があるから、必ずしも不登校になるわけではないということです。しかし、「相手の気持ちや状況を読み取って行動することが苦手である」「感情のコントロールが苦手である」などの発達障害の特性により、友達と言いつい争いになってしまったり、どのように振る舞えばいいのかわからなくて不安になったりしたことはあったかもしれません。また、自分の取った言動に対して、先生や友達に怒られたり、注意されたりして、「どうせ自分はだめなんだ…」と、自己肯定感を下げてしまうこともあったかもしれません。そのような経験が繰り返される中で、気分が落ち込んでしまったり、腹痛などの身体症状が表れたりすることも考えられます。それが、登校しぶりにつながることもあるでしょう。

① 登校しぶりの理由を探る

お子さんが、とりえず学校に行けるようになればいいという対症療法的な対応だけでは、解決に向かわないこともあります。なぜ登校しぶりという行動を取っているのかという理由を探ることが大切です。例えば、先生や友達の思いがうまく読み取れなくて、人間関係に疲れてしまったことが理由であるならば、絵や吹き出しなども使いながら、お子さんや相手の気持ちを分かりやすく伝えるやりとりをすることなどが考えられます。やりとりを通して、お子さんは、気持ちのすれ違いや勘違いに気付いたり、自分の気持ちを聞いてもらえる安心感を得たりすることができるのではないのでしょうか。このように理由を考えて支援していくことで、お子さんの気持ちに寄り添った対応になっていきます。

② 今、できる支援を考える

理由が分かりやすい場合には、前述したように適切な支援につながりやすいのですが、場合によっては、理由を特定できないこともあるでしょう。そのようなときには、まず、心の安定を図りましょう。お子さんにとって、ありのままの自分を受け入れてくれる人とのつながりは、何にも勝る心のエネルギーとなります。また、できない自分に傷ついているのであれば、できるからよい、できないから悪いという価値観だけではないことを丁寧に伝えていきたいものです。目標に向けて頑張った過程や、前回よりもできるようになった成長をたくさん褒めることで、苦手なこともあるけれど、いいところもあるんだと、お子さんが自分を好きになれるように言葉をかけていけるといいですね。

③ チームで取り組む

学校へ行きづらいお子さんの対応には、相当のエネルギーを要します。お父さんの心と体にも元気とゆとりが必要です。一人で抱え込まずに、学校や地域の方、相談機関としっかり連携をとって、チームで支援していきましょう。支えてくれる人がいることに気付くと、大変心強いものです。

発達障害のある子どもへの支援

発達障害とは

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症
広汎性発達障害
アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

それぞれの障害の特性

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えるよりも先に動く)

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

政府広報オンライン
特集「発達障害って、なんだろう?」から

※自閉症・広汎性発達障害、アスペルガー症候群等は、「自閉症スペクトラム」と呼ばれることもあります。

学校では

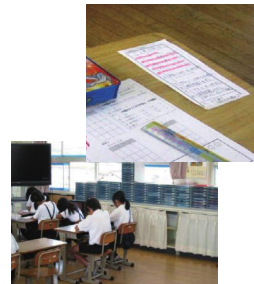
クラス子ども全員が「わかる・できる」授業づくりと互いを認め合う集団づくりを行った上で、特別な支援を必要とする子の個別の指導・支援に取り組んでいます。

集団への支援



めあての提示やICT機器の活用など

個別の支援



学習の流れの提示や席の位置など

周囲の関わり方の大切さ

本人の特性

- できることとできないことの差が大きい
- 人と違った感じ方、考え方をしている

気持ちを分かってもらい、ほめてもらい、支えてもらうと…

自己肯定感が上がり、集団の中で、本来の良さが発揮される

気持ちが伝わらず、いつも叱られ、孤立すると…

自己肯定感が下がり、望ましくない社会行動が生じやすくなる

高等学校等への進学や就職を支援するポイント

自立し、働くことへの前向きな姿勢を育む

障害の特性や、自分の強み・弱みに関する自己理解を導く

進学・就職先へ支援情報を引継ぐ(個別の教育支援計画等の活用)

障害のある人とない人が
共に支え合う社会をつくる

※高等支援学校や特別支援学校高等部知的障害部門に入学する基準は、「知的障害があること」が前提となります。高等学校等において必要な支援を受けながら学んでいくことになります。

ひとりで悩まないで!

「うちの子は発達障害なの?」

「発達障害にどう対応したらいいかわからない」

子どもへの支援で一番大切なことは、子どもに関わる周囲の人が、**つながってみんなで支え合うこと**です。まずは、一人で悩まず、気軽に御相談ください。

岡山県総合教育センター

● 障害や発達に関すること	☎(0866)56-9117
● 障害のあるお子さんの学習面や学校生活に関すること	
● 障害のあるお子さんの家庭生活に関すること など	
面接相談【要予約】	月・水・木・金曜日/9:00~19:00 火曜日/13:00~19:00
電話相談(随時)	月・水・木・金曜日/9:00~17:00 火曜日/13:00~17:00
土・日・祝日・振替休日はお休みです	
医師による教育相談【要予約】 上記電話で相談予約	
原則、毎月第4水曜日/16:00~18:00	
※相談内容によってはお受けできない場合があります	

お住まいの市町村教育委員会や児童相談所・発達障害者支援センター等でも相談に応じています。